

C. キャリア支援②

本分科会では、キャリア、学生相談、障害学生支援等の各担当部署に籍を置く教職員（コーディネーター、カウンセラー等）により、各大学における障害学生のキャリア支援の現状を共有するとともに、大学での障害学生のキャリア支援の取り組みにおける各職種や学内組織等の強みについて議論した。

1. 障害学生のキャリア支援の体制について

まず、各大学における障害学生支援担当組織の状況を確認し、障害学生のキャリア支援の実施体制について共有した。障害学生支援担当組織については、障害学生支援担当部署が障害別（身体障害、精神障害、発達障害）で分かれている大学、障害種別を問わず特定の部署で対応している大学の他、特定の専門部署のない大学等の状況が報告された。キャリア支援の実施体制については、キャリア担当部署に障害学生担当者が配置されている大学、キャリア担当部署と障害学生支援担当部署が合同で会議をする等して情報共有を図りながら取り組みを進めている大学、学生相談室のカウンセラーがキャリア支援のコーディネーターも一手に担う大学の状況等が報告された。小規模校の参加者からは、クラス担任からの情報提供を受けながら、キャリア担当部署が障害学生のキャリア支援に取り組んでいる状況が報告された。

2. 支援を必要とする学生との接点について

続いて、発達障害の可能性のある学生等、キャリア支援において配慮が必要と考えられ

る学生と、障害学生のキャリア支援を担当する部署との接点の持ち方について情報交換を行った。

参加者からは、学内のどこかの窓口で支援が必要と思われる学生が訪れた際に、障害学生支援コーディネーターがその場に出向き、「障害学生支援」をあまり前面に出さない形でキャリア担当部署と繋いでいる事例等が報告された。また、キャリアに関する情報を掲載した大学のホームページで障害学生のキャリア支援の取り組みを発信することで、障害学生がキャリア担当部署と繋がる敷居を低くしようとする取り組みを検討している事例も報告された。

3.障害学生のキャリア支援における各組織・職種等の強みについて

最後に、大学において障害学生のキャリア支援に取り組むうえでの各学内組織・職種等の強みについて、参加者の経験を踏まえて議論した。キャリア担当者からは、企業との豊富なつながりを生かした情報提供ができること、正社員で就職するといった狭い意味でのキャリアにとどまらず、一人の学生の人生におけるキャリアという視点で関わり支援できること等が強みとして挙げられた。また、キャリア担当部署に障害学生担当者を配置することで、障害学生との継続的な関わりと情報集約が容易になり、また障害者雇用に関する情報も集約しやすくなることから、より充実した取組が可能になるという事例も報告された。

障害学生支援担当者からは、就労以降、支援事業所や障害者職業センター等の学外機関の活用について、むしろキャリア担当部署の職員よりも精通している場合があるという声が挙げられた。そうした中で、キャリア支援において障害学生支援担当者が前面に立ち、学

外機関との連携や、学内での障害学生のアルバイトの機会の確保を進めているといった事例も報告された。

また小規模校の参加者からは、教職員・保護者・学生との連携がし易いという組織体制の強みが挙げられた。そうした状況を踏まえ、小集団でコミュニケーションができるような場を設定し、一人一人の学生の状況と向き合いながら対話をし、検討しながら取り組みを進めていくことの大切さを確認した。

以上